

## 2020 年度情報センター自己点検評価書

### まえがき

情報センターは、隔年実施にて、情報センター内の自己点検評価書公開（西暦の偶数年度）と、情報化評価委員会による外部評価報告書公開（同奇数年度）を実施している。2020 年度は、情報センター内の自己点検評価を行ったため、本書にて公開する。隔年実施につき、対象期間は、2019 年度から 2020 年度にかけての 2 年間である。自己点検評価書は、2018 年度までは、所属教員の個人評価を中心として編集作業が行われてきたが 2020 年度は、組織的なパートを個人パートの前に加えることとした。

2019 年度から 2020 年度にかけては、2018 年度本格化した大学全体の ICT 化施策の導入から実践期、展開期と位置付けられる。さらには、特に後半の 1 年間は、外因性によるものではあるが、新型コロナウイルス感染症対策に伴う、ライフスタイルの変化（ICT 化）、DX 推進が一気に本格化した年としても特筆の期間であった。そのような特徴的な期間における情報センターの取組について、本書に整理を行うこととした。

本書は、情報センター職員個々の省察も編集の主目的ではあるが、本来的には組織の自己点検が目的と位置付けられる。そのため、組織のパフォーマンスを客観的に見ていただき、ご意見等あれば情報センターの設置するコールセンター等にご意見お寄せいただくことも歓迎する。

2021 年 3 月 31 日

情報センター自己点検・評価委員会委員一同

松浦 健二(1号委員)

上田 哲史(2号委員)

佐野 雅彦(2号委員)

沖津 貴司(2号委員)

谷岡 広樹(3号委員)

## 内容

1. 概要 .....	3
1.1 規則等.....	3
1.2 組織・体制 .....	3
1.3 情報セキュリティ .....	4
2. 情報統括部門.....	4
2.1 目標・計画 .....	4
2.2 業務実績のサマリ .....	4
2.3 自己点検評価.....	6
3. ICT サービス部門 .....	6
3.1 目標・計画 .....	6
3.2 業務実績のサマリ .....	6
3.3 自己点検評価.....	7
4. 事務室 .....	7
4.1 概要 .....	7
4.2 各種会議に関する業務 .....	8
4.3 事務系ネットワーク管理 .....	8
4.4 事務系パソコンの運用に関する支援 .....	8
4.5 グループウェアの運用管理.....	9
4.6 事務用システムに関する業務 .....	9
4.7 事務 I C T 化施策に関する業務 .....	11
5. 所属教員の自己点検.....	12
5.1 松浦健二（教授，センター長） .....	12
5.2 上田哲史（教授，副センター長，ICT サービス部門長） .....	13
5.3 佐野雅彦（准教授，情報統括部門長） .....	15
5.4 谷岡広樹（講師，ICT サービス部門・蔵本分室長） .....	16
5.5 研究業績リスト（2019—2020 統合） .....	17
5.6 外部資金獲得（2019-2020） .....	23
5.7 共同研究・受託研究等 .....	23

## 1. 概要

### 1.1 規則等

2021年4月1日現在、以下の文書にて外部公開中につき、Web参照されたい。以下は、学外公開規則のみであり、この他学内公開規則があるが、自己点検・評価委員会は、下記の(4)の規則に従う。

- (1) [情報センター規則](#)
- (2) [情報セキュリティ管理規則](#)
- (3) [情報センター施設管理規則](#)
- (4) [情報センター自己点検・評価委員会規則](#)
- (5) [情報センター情報化評価委員会規則](#)
- (6) [情報センター利用規則](#)

### 1.2 組織・体制

- 情報センター長：松浦健二
- 副センター長：上田哲史
- 学術情報部長：林田宏三

部門・室	職員	備考
情報統括部門	佐野雅彦（ <u>部門長</u> ，准教授） 八木香奈枝（技術専門職員） 板東孝文（技術員）	
ICT サービス部門	上田哲史（ <u>部門長</u> ，教授） 谷岡広樹（ <u>蔵本分室長</u> ，講師） 松浦健二（室員，教授） 佐藤知津（技術補佐員） 契約職員5名	
事務室	沖津貴司（ <u>事務室長</u> ，課長） 菊池永治（室員，係長） 中山順（室員，専門職員） 原雄三（室員，事務職員） 竹内寛典（室員，特任事務職員） 篠原佳奈（室員，特任事務職員） 原千賀子（室員，事務補佐員） 山根久視（室員，事務補佐員） 宮内裕子（室員，技術補佐員）	

### 1.3 情報セキュリティ

情報センターでは、ISMS (ISO27001) 運用を9年間実施してきた。情報セキュリティマネジメントは、計画段階から実施、有効性評価等のPDCAを回すこと、事前承認と記録といったエッセンスを構成員個々に意識して、確実に実施することが求められる。

年間情報セキュリティ目的 YYY (西暦) および年間情報セキュリティ計画書 YYY として、組織内部文書がまとめられ、また、各部門では、年間情報セキュリティ目標・計画としてまとめられた文書にしたがって、計画通り進んでいる。このことは、年間の内部監査2回を毎年実施していること、そのマネジメントレビューを実施していることから評価している。なお、情報セキュリティマネジメント事体も、年に一度は外部監査に相当する更新審査または経過審査を経ており、客観性もある。よって、組織的な情報セキュリティについては、概ね問題なく進行できていると考えられる。

## 2. 情報統括部門

### 2.1 目標・計画

- (1) 情報センターISMSの推進
- (2) 徳島大学情報セキュリティポリシーの推進
- (3) 徳島大学の情報セキュリティポリシーに関する助言型内部監査の実施
- (4) 各種情報システムの調達・改善
- (5) 担当する情報システムおよび情報セキュリティの運用・管理
- (6) 学内サーバのセキュリティ診断
- (7) 他部局支援

### 2.2 業務実績のサマリ

- (1) 情報センターのISMS活動について更新審査(2021年1月13日から15日)を受審し、2月12日付けで合格し、3月1日から有効となった。前回(昨年度の定期サーベイランス審査)よりも改善したとの判定を受けた。情報統括部門ではこのISMS活動を推進している。
- (2) 情報セキュリティポリシーの教育では、2019年度より教職員の受講が必須となった。「情報倫理」e-learningコンテンツは、2019年度96.1%(母数3317名)であったが2020年度は3/1日時点で96.0%(病院を今回も受講に含む)(母数3259名)であり、前年度と同水準を維持した。また、本年度から本学総務部総務課と合同で「個人情報保護に関する自己点検」も開始した。この自己点検は3/1日時点で3059名自己点検済みとなった。来年度は、前述の「情報倫理」と合わせて同時期に実施することを予定している。

情報セキュリティポリシーの一部改定を実施した。これは、コロナ禍により、遠隔での業務や講義の実施機会が増加したことを受けて、その方針等についてポリシーに盛り込み改定した。なお、改定にあたり、学内から意見募集を行った結果、多数の意見が寄せられ

たことから、次回のポリシー更新においては、大幅に見直すこととしている。また、ポリシーに関連する手順書類もポリシーの一部改定にあわせて更新した。

- (3) 情報セキュリティポリシーの運用状況の確認としては、毎年実施している「助言型内部監査を3/1時点で8箇所実施済み（結果集計中）」で、年度内で10箇所を予定している。
- (4) 本年度調達あるいは導入等を実施した情報システムは以下の通りである。

- ・ 仮想化基盤システム

現在運用中の仮想化基盤A, Bのシステムを更新するための調達であり、一度入札を実施したが、コロナ禍による影響により、不調となった。このため、仕様書を見直して再度調達を実施中、令和3年9月末納品予定。情報統括部門では仕様書作成等を実施。

- ・ 共用ストレージシステム

- ・ 電子文書を共用するためのストレージサービスを提供するための調達であり、上記仮想化基盤システム同様、不調となった。このため、同様に、再度調達中。令和3年9月末納品予定。情報統括部門では仕様書作成等を実施。

- ・ 無線LANアクセスポイント

学内に展開されている無線LANのうち、情報センターが管理する無線について老朽化が進んだものについて更新を行った。本年度は約100台のアクセスポイントを更新した。次年度は135台更新する予定となっている。

- (5) 担当するシステムの運用・管理について

全学ファイアウォール、基幹スイッチ・部局棟スイッチなどの基幹ネットワークの管理運用を行っている。ネットワークの停止は本年度発生していない。また、全学サービスにかかるサーバについても運用・管理を行っている（マイページポータル、全学無線・VPN認証、全学共用プロキシサーバ、DNSサーバ、文書共有システム、お預かりシステムなど）。

- (6) 学内サーバのセキュリティ診断について

脆弱性診断ソフト「QualysGuard」を用いたセキュリティ診断を行った。事前のトラフィック集計、各部局への問合せにより学内サーバの調査・特定を行った結果、診断対象は合計30部局、399台のサーバとなった。3月4日時点で全サーバの診断が完了しており、結果として6部局、計9台のサーバから既知の脆弱性レベル5（緊急）が検出されたため、各部局に緊急の対応依頼を行っている。また、それ以外のレベルの既知の脆弱性、または潜在的な脆弱性についても、対応が必要とされるものを精査し、対応依頼を行う予定である。

- (7) 他部局支援

- ・ 事務情報化支援

情報企画課が推進する事務情報化施策の中で、電子申請の導入における支援を行った。研究・産学連携部 蔵本研究・産学支援課が運用している遺伝子組み換え実験と動物実験に関連する申請の電子申請システムを開発し、2021年3月時点で改修対応中である。

## 2.3 自己点検評価

上記事項において、一部の調達が再調達となった以外は概ね予定通りに実施された。再調達となった事項についても、本年度中に開札予定である。また、本年度全体としては、予定事項については概ね実施されたが、コロナ禍による影響による他の業務支援の負担も増加した。

来年度は、調達する仮想化基盤や共用ストレージシステムの構築等、業務負荷が増加するため、既存業務の効率化が必要である。

## 3. ICT サービス部門

### 3.1 目標・計画

#### (1) 規定の部門目的に沿った業務

- (ア) 全学的な情報基盤及び情報サービスの提供に関すること
- (イ) 全学的な情報基盤及び情報サービスの管理運用に関すること
- (ウ) 各部局等における情報システムの導入支援に関すること

#### (2) 以下の年度セキュリティ目標・計画にしたがった活動

- (ア) ISMSの確実な運用
- (イ) 業務の効率化・運用手順の見直し
- (ウ) 情報資産の見直し（棚卸）
- (エ) 情報システムの運用
- (オ) 情報セキュリティ水準の改善
- (カ) 事務情報化推進PJ対応
- (キ) 次期教育用計算機システム仕様策定
- (ク) 緊急事態宣言時の対応（新型コロナ対策のBCP対応）

### 3.2 業務実績のサマリ

#### (1) 規定の部門目的に沿った業務

- (ア) 全学的な情報基盤及び情報サービスの提供に関すること
  - ・多要素認証の仕組みを導入した
  - ・遠隔教育に関する技術情報の一元的情報提供ページを作成し、提供した
- (イ) 全学的な情報基盤及び情報サービスの管理運用に関すること
  - ・キャンパス情報基盤システムの安定稼働に努めた
  - ・情報センターウェブサイト運用を通じて、様々な情報発信を行った

- ・遠隔授業に関する技術情報の一元化サイトにて、多数のマニュアルを作成・公開した
- ・LINEの公式アカウントを開始し、情報提供の幅を広げた
- ・クライアント向けセキュリティソフトの運用を行った
- ・情報センター広報（愛茶便）のオンライン発行を行った

(2) 以下の年度セキュリティ目標・計画にしたがった活動

(ア) ISMSの確実な運用

ISMSの部門運用を行い、内部監査対応を実施した。

(イ) 業務の効率化・運用手順の見直し

運用手順の見直しを行った。

(ウ) 情報資産の見直し（棚卸）

台帳等の棚卸しを実施した。

(エ) 情報システムの運用

キャンパス情報基盤システムやキャンパスネットワークシステムの運用を行った。

(オ) 情報セキュリティ水準の改善

情報セキュリティ水準の維持・向上に資する活動を行った。

(カ) 事務情報化推進PJ対応

前年度からの継続で、事務情報化推進プロジェクトを推進した。特に、RPAの普及活動、電子申請の展開を継続実施した。

(キ) 次期教育用計算機システム仕様策定

仕様策定の活動を行った。

(ク) 緊急事態宣言時の対応（新型コロナ対策のBCP対応）

本学BCPのレベルに応じた対応方針を定め、文書化した。

### 3.3 自己点検評価

上記点検事項に記載の項目は、概ね予定通りに実施された。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症対応として、遠隔授業やテレワークへの対応に奔走した年であった。それを推進するには、セキュリティの見直しも必要であり、これら両輪で大きな活動を実施してきた。スタッフの稼働が特に年度初期に集中したが、定常化を図ってきた結果、少しずつ安定してきたといえる。来年度は、調達やシステム導入後の運用等、業務負荷が増加するため、既存業務のさらなる効率化が必要である。

## 4. 事務室

### 4.1 概要

事務室は、位置付けとして徳島大学事務組織として事務局学術情報部に配置され、情報

企画課となっており、企画運営係を置いている。

2020 年度においては、情報管理課(課長、専門職員、係長、係員、特任事務員2名、事務補佐員2名)8名及び情報センター技術補佐員1名の9名体制としている。

#### 4.2 各種会議に関する業務

・情報戦略室会議(11回)

・情報化推進委員会(7回)

・事務情報化委員会(6回)

(参照:本学 HP 情報管理活用システム「情報企画課フォルダ」)

#### 4.3 事務系ネットワーク管理

事務系ネットワークについて、ネットワークスイッチの死活監視や利用者への IP アドレス付与を行っている。

2020 年度の事務ネットワークの運用実績としての障害件数は1件のみであった。

2020.05.19

深夜に発生した瞬停の影響とみられるネットワーク機器の故障が発生した。影響は理工学部事務課のみであった。情報センターの代替機器にて対応を行い、同日の午後には復旧させた。

#### 4.4 事務系パソコンの運用に関する支援

##### 4.4.1 環境設定支援

事務系パソコンの新規導入時において、個々の業務に依存しない共通の設定についての支援を行っている。2019 年度に多くの Windows 7 PC の入替を行ったため、2020 年度は 50 件程度であった。

##### 4.4.2 事務部テレワーク試行対応

2020 年度から続く新型コロナウイルス感染症(COVID-19)への対策及び働き方改革により、2020 年 8 月 31 日から 9 月 11 日の期間で事務部門におけるテレワークの試行導入を実施した。それに対応するためにインフラ整備や利用者の支援等を行った。

##### 4.4.3 設定不具合対応

事務系パソコンの動作に関する問合せの対応を行っており事務系固有の不具合というのは少ないため ICT サービス部門と連携して対応している。内容については ICT サービス部門の業務に記すとおりである。

##### 4.4.4 セキュリティ対応

2020年度は特になし

#### 4.5 グループウェアの運用管理

本学の事務職員間でのコミュニケーションツールのひとつとして、サイボウズ Office を採用しており、その運用管理を行っている。組織間でのスケジュール共有や各種事務連絡等の情報揭示の他、会議室並びに共用公用車の予約管理等などで利用されており、毎日約 400 人のユーザが継続的にアクセスする事務職員にとって欠くことのできないシステムとなっている。

サイボウズ Office は 2002 年 6 月の導入からバージョン更新を重ねており、2014 年 11 月に仮想化基盤上に現在運用中のサイボウズ Office 10 を構築した。2002 年の導入当初こそ多くのシステム障害に見舞われていたが、現在では安定稼働状態にあり 2018 年 4 月から 2020 年 3 月までの障害数は 0 件であった。しかしながら、システム的には古くいくつかの制限を抱えているため、システムの更新を検討課題としている。

2020 年度においても障害数は 0 件であった。

#### 4.6 事務用システムに関する業務

##### 4.6.1 人事給与システム

人事給与システムは、平成24年4月に導入し、平成30年4月からはクラウドサーバ上でシステムを安定稼働できるようクラウドサーバ管理運用を行う契約を外部業者と締結している。人事課が主として利用する人事給与システムのインフラ環境整備支援、人事業務効率化を目的とする企画立案と推進、及び機能カスタマイズ支援等、システム全般の運用サポートを行っている。

以下に示す定常事務作業の他、平成30年9月にクラウド環境へのインフラ移行を全面支援し安定稼働を実現した。令和元年度には大学方針であるペーパーレス、各種法改正(働き方改革推進法等)に対応するための就労管理について構築中である。なお、業務は以下のとおりである。

##### 定常事務業務

- ・月次定例会
- ・システム保守状況の確認
- ・調達仕様書策定支援
- ・コールセンター窓口
- ・クライアント環境構築支援

##### 2018 年度,2019 年度特化業務

##### 2018 年度

- ・クラウド環境への移行・環境構築(VPN 環境構築)

- ・定例会の WEB 会議活用による業務効率化
- ・職員証等 IC カードを活用した健康時間管理支援(2019 年度1月から全学運用)

#### 2019 年度～2020 年度

- ・統合認証による人事給与システムへのシングルサインオン構築
- ・給与支払明細書電子化によるペーパーレス
- ・就労管理システム化によるペーパーレス
- ・一部行政手続き電子申請化システム構築支援

#### 2020 年度

- ・年末調整申請の WEB 化実施
- ・勤怠管理、給与明細・源泉徴収票等の WEB 化準備
- ・人事給与システム内に c アカウント取込実施

### 4.6.2 財務会計システム

#### 【導入背景・目的】

国立大学の法人化に伴い、平成16年度より企業会計原則を取り入れた国立大学法人会計基準に基づき財務諸表等の会計報告を毎事業年度作成しており、法人化以降説明責任(アカウントビリティ)を担う財務会計機能をもつ「財務会計システム」を導入してきた。財務会計システムを更新するにあたり、現行システムの機能の維持及び安定稼働を継続することを目指しつつも、システムパフォーマンスの更なる向上や日々変化する内的・外的環境にも対応することのできるシステムである必要があり、以下の項目を目的とする。

- ・汎用性・流通性の高いパッケージシステムを採用し、経費削減を図る
- ・発生源システムにおける利便性の更なる向上
- ・他システムとのデータ連携の安定稼働
- ・処理時間の短縮と効率化に向けたシステムパフォーマンスの向上
- ・会計基準等の改訂及び組織改変への柔軟な対応

全学における会計業務の円滑な遂行と効率的な運営を図ることができるとの支援を行う。システムの利用に係る事務手続きの受付、システム運用に必要な各種設定を行っている。また、日々のシステム稼働状況の確認等、システム管理を行っている。

2019 年度には、次期の更新スケジュールを事務情報化委員会において見直した。また、12月には BCP 対策として新蔵地区2階サーバ室のサーバを情報センター4階サーバ室に全て移転した。

#### 定常事務業務

- ・システム稼働状況の確認
- ・コールセンター窓口

- ・クライアント環境構築支援
- ・年度更新作業支援
- ・ユーザ登録作業支援
- 2019 年度特化業務
- ・テストサーバ設置場所移転
- ・OS サポート終了に伴うテストサーバ更新

2020 年度においては、次期更新のための業務を以下のとおり実施した。

- ・次期システムの仕様策定並びに入札による業者決定
- ・仕様策定にあたり仕様書に旅行命令決裁の電子化を掲載
- ・入札による競争性を担保するため導入日変更の結果、現状より安価な入札学となった。
- ・令和4年4月稼働に向けた全学スケジュールの作成並びに実行

#### 4.6.3 教務システム

教務システムは、平成 19 年 3 月から情報化推進センターコンピュータシステムに含めて一括調達(契約期間:平成 19 年 3 月～平成 24 年 2 月,平成 24 年 3 月～平成 29 年 2 月)され、教務事務業務の効率化を図ってきたところである。平成 29 年 3 月からはキャンパス情報システムより独立させ、従来の教務システムのリース契約を延長し、本学ホスティングサービスを利用した仮想サーバ上での運用を行っている。

しかしながら、システムのリースアップに際しては、導入後年数が経過した現設備の老朽化、悪意ある攻撃や大災害への耐性、技術革新やスマートフォン利用率の上昇等の社会情勢の変化に鑑みて実施する必要がある、さらには、それらを利用する側のデバイスやネットワーク環境と利用者個々のスキルやリテラシの変化に鑑みて、今後のサービスやその導入方針を見直す必要がある。更には、業務の継続性をハードウェア的に支えると同時に、システムが更新される際には、実際に現場に携わる学生や教職員の運用フローに鑑みた業務の継続性を、可能な限り担保することも重要である。

このような理由から、より高度な情報システムを学内に提供し、柔軟性かつ拡張性に富んだアプリケーションシステムの構築を図り、環境に配慮された、安定的で信頼性の高いサービスを提供することを目的として、「教務システム」の導入(更新)を行うものである。平成30年度に更新のための仕様を策定し、令和元年8月に更新した。

2020 年度には、WEB オプションシステムの「授業料免除システム」を次年度に導入予定であることから、担当の学生支援課及び教務システム管理部署の教育支援課のそれぞれの担当者とセキュリティを含め運用についてのアドバイスをを行った。

#### 4.7 事務 ICT 化施策に関する業務

平成31年4月3日開催の大学ICT化検討委員会において「電子申請」、「電子決裁」、

「RPAの活用」及び「文書ストレージの構築」の4事業が承認され実施することとなった。「電子決裁」については、2019 年度に導入、2020 年4月より本稼働している。「文書ストレージの構築」については、2019 年 10 月より本稼働している。

「電子申請」により電子化に移行できた業務については、以下のとおりである。

参照:「電子申請化業務一覧」

「RPAの活用」により自動化できた業務は以下のとおりである。

参照:「RPA 自動化業務一覧」

なお、RPA 活用のための支援については、以下のとおりである。

2019 年度

【RPA 講習会】

令和 2 年 2 月 17 日(月), 18 日(火)に常三島地区及び蔵本地区で事務職員を対象としたRPA講習会を開催 (情報企画課 HP に動画を掲載)

2020 年度

【RPA トライアル】

令和2年8月17日から9月17日まで WEB により開催 (情報企画課 HP に動画を掲載)

【全学使用のための整備】

RPA ロボオペレータを新たに導入(令和2年10月から2ライセンス), 全学利用のためサイボウズに予約システムを設定

【RPA 導入成果報告会】

令和3年2月3日に開催 (情報企画課 HP に動画を掲載)

## 5. 所属教員の自己点検

### 5.1 松浦健二 (教授, センター長)

- ・役職等 : CIO 補佐/CISO 補佐, 全学情報セキュリティ責任者, 情報化推進委員会委員長
- ・兼務等 : 大学院先端技術科学教育部, 大学院創成科学研究科, 理工学部, 工学部
- ・専門分野 : マルチメディア応用, 学習支援システム

#### (a) 学内委員等の学内活動

- ・情報化推進委員会委員 (2010 年 4 月 1 日~)
- ・教育の質に関する専門委員会委員 (2020 年 4 月 1 日~2022 年 3 月 31 日)
- ・学教育委員会 (2020 年 4 月 1 日~2022 年 3 月 31 日)
- ・研究教育評議会オブザーバ (2020 年 4 月 1 日~2022 年 3 月 31 日)
- ・情報戦略室室員 (2019 年 4 月 1 日~2021 年 3 月 31 日)
- ・技術支援部運営委員会委員・アドバイザー (2019 年 4 月 1 日~2021 年 3 月 31 日)

- ・自己点検・評価委員会委員 (2018年4月1日～2020年3月31日)
- ・部局システム管理運用責任者 (2015年11月1日～2020年3月31日)
- ・ICT活用教育部門会議 委員 (2014年4月1日～2021年3月31日)
- ・附属図書館運営委員会委員 (2011年4月1日～2020年3月1日)

(b) 学会等の活動

- ・教育システム情報学会 (理事 [2017年6月～2021年6月], 産学連携委員会委員長 [2017年6月～2021年6月], 研究会委員会委員 [2018年5月～2021年4月], 英文誌編集委員会編集委員 [2018年9月～2020年3月], 第45回全国大会実行委員会委員 [2019年10月～2020年9月], 合同英文誌 ITEL 編集委員 [2019年11月～2023年3月])
- ・情報処理学会 (CLE 研究会運営幹事 [2018年4月～2022年3月], SSS プログラム委員会委員 [2019年5月～2020年12月], RDM 研究グループ運営委員 [2019年5月～2021年5月])
- ・日本教育工学会 (特任編集委員 [2016年4月～2021年3月])
- ・電子情報通信学会会員
- ・社団法人 人工知能学会会員

(c) その他の学外活動

- ・徳島県警・ネットウォッチャー [2012年1月～]
- ・国立情報学研究所 (学術認証フェデレーション運用作業部会メンバ [2013年10月～2020年3月])
- ・四国情報通信懇談会 (ICT 研究交流フォーラム幹事 [2013年～2021年3月])
- ・文部科学省 (ICT 活用教育アドバイザー [2020年6月～2021年3月])

(d) 教育

- ・情報セキュリティ (理工学部)
- ・情報セキュリティシステム論 (大学院)
- ・情報光システムセミナー (理工学部)
- ・情報基盤システム特論 (大学院)
- ・情報科学入門 (教養教育)
- ・知能情報システム設計特論 (大学院)

(e) その他

- ・2019年9月, 2018年度研究会優秀賞 (教育システム情報学会)

5.2 上田哲史 (教授, 副センター長, ICT サービス部門長)

- ・役職等: 情報企画・広報担当副理事, 附属図書館副館長
- ・兼務等: 大学院先端技術科学教育部, 大学院創成科学研究科, 理工学部, 工学部
- ・専門分野: 非線形工学, 非線形回路工学, 非線形システム工学, フィールド情報学

(a) 学内委員等の学内活動

- ・情報戦略室室員 (2010年7月～)
- ・情報化推進委員会委員 (2010年8月～)
- ・CIO 補佐, CISO 補佐 (2012年4月～2020年3月)
- ・情報公開・個人情報保護委員会委員 (2012年4月～2020年3月)
- ・大学教育委員会委員 (2012年4月～2020年3月)
- ・研究教育評議会オブザーバ (2012年7月～2020年3月)
- ・広報戦略室室員 (2012年7月～2022年3月)
- ・教育の質に関する専門委員会委員 (2016年4月～2020年3月)
- ・創立70周年記念事業委員会 委員 (2017年6月～2020年3月)
- ・ICT化検討委員会委員 (2017年12月～2020年3月)

(b) 学会等の活動

- ・電子情報通信学会 (複雑コミュニケーションサイエンス時限研究専門委員会 委員 [2015年4月～2021年6月], NOLTA IEICE 編集幹事 [2013年5月～], 複雑コミュニケーションサイエンス研究専門委員会 委員 [2015年4月～2019年6月], NOLTA ソサイエティ 次期ソサイエティ会長 [2018年6月～2019年6月], サービス委員会 委員 [2018年6月～2020年6月], サービス委員会アドホック会合 委員 [2018年6月～2019年6月], NOLTA ソサイエティ ソサイエティ会長 [2019年6月～2020年6月])
- ・計測自動制御学会会員
- ・IEEE (Member of Technical Committee, Nonlinear Circuits and Systems [2001年5月～], Vice chair, Shikoku Section [2019年1月～2020年12月], Chair, Shikoku Section [2020年1月～2022年12月])
- ・情報処理学会会員
- ・信号処理学会 (NCSP 運営委員会委員 [2008年7月～], 論文誌副編集長 [2013年6月～], 理事 [2015年4月～2021年3月])

(c) その他の学外活動

- ・e-とくしま推進財団 (個人会員 [2012年4月～], 理事 [2018年9月～])
- ・徳島県警・ネットウォッチャー [2012年1月～]
- ・徳島県情報セキュリティアドバイザー [2016年4月～2020年3月]
- ・徳島県道路防災情報管理システム構築業務委託事業者選定委員会委員 [2018年5月～2019年7月]
- ・徳島県公立小中学校「学校業務支援システム」構築業務受託候補者選定委員会委員 [2019年4月～9月]
- ・「新たな総合戦略」研究会 委員 [2019年5月～11月],
- ・防災拠点情報ネットワーク強靱化(庁内クラウド再構築)にかかる業務事業者選定委員会委員 [2019年5月～8月]
- ・徳島県立3病院総務事務システム導入業務事業者選定委員会 [2019年10月～2020年

1月]

- ・徳島県警察サイバー犯罪対策テクニカルアドバイザー [2020年4月～2021年3月]
- ・徳島県教育情報ネットワークサービス提供業務受託候補者選定委員会 委員 [2020年6月～2021年3月]
- ・県立総合大学校奨学金返還支援システム構築業務委託業者選定委員会 委員 [2020年9月～10月]
- ・徳島県 デジタル社会推進タスクフォース アドバイザ [2020年12月～2021年3月])
  
- ・四国情報通信懇談会 (委員 [2011年4月～], ICT 研究交流フォーラム 幹事 [2011年4月～])
- ・東京大学生産技術研究所 (リサーチフェロー [2019年4月～2020年3月])
- ・とくしま OSS 普及協議会 (監事 [2012年7月～2019年5月])
- ・国立大学法人情報系センター協議会 (論文誌編集委員会 [2016年1月～2019年6月], 幹事 [2018年6月～2020年7月], 組織改革タスクフォース委員 [2018年6月～2020年7月], 事務遂行教職員 [2020年7月～2021年6月])
- ・大学 ICT 推進協議会 (理事 [2017年5月～2021年5月])
- ・徳島市 (GIGA スクール整備事業(校内通信ネットワーク)に係る事業者選定委員会 委員 [2020年3月～2021年3月], GIGA スクール学習環境整備事業(1人1台タブレット端末)に係る事業者選定委員会 委員 [2020年6月～9月])

(d) 教育

- ・情報セキュリティシステム論 (大学院)
- ・情報光システムセミナー (理工学部)
- ・情報基盤システム特論 (大学院)
- ・情報科学入門 (教養教育)
- ・技術英語入門 (理工学部)
- ・複雑系システム工学特論 (大学院)
- ・電子回路 (理工学部)
- ・電気回路及び演習 (理工学部)
- ・非線形システム設計特論 (大学院)

(e) その他

5.3 佐野雅彦 (准教授, 情報統括部門長)

- ・兼務等: 大学院先端技術科学教育部, 大学院創成科学研究科, 理工学部, 工学部
- ・専門分野: 計算機アーキテクチャ, インターネット, 情報セキュリティ

(a) 学内委員・役職等の学内活動

- ・情報セキュリティ管理者 (2010年4月～)

基幹情報セキュリティ責任者 (2018年4月～)

- ・情報化推進委員会委員 (2010年8月～)
- ・環境・エネルギー管理委員会(2015年4月～)

(b) 学会等の活動

- ・情報処理学会会員
- ・電子情報通信学会会員
- ・IEEE 会員

(c) その他の学外活動

- ・徳島県 (「食品・生活衛生施設管理システム構築業務委託」プロポーザル方式業者選定委員会 委員 [2019年8月～10月])
- ・徳島県警・ネットウォッチャー [2012年1月～]
- ・徳島県情報セキュリティアドバイザー [2016年4月～]
- ・徳島県立二十一世紀館協議会委員 (2019年4月～)

(d) 教育

- ・STEM 演習 (学部)
- ・コンピュータアーキテクチャ (理工学部)
- ・システム設計及び実験 (理工学部)
- ・並列・分散処理システム設計特論 (大学院)
- ・情報セキュリティシステム論 (大学院)
- ・情報基盤システム特論 (大学院)
- ・情報科学入門 (教養教育)
- ・知能情報システム工学輪講及び演習 (大学院)
- ・知能情報システム特別輪講 (大学院)

(e) その他

5.4 谷岡広樹 (講師, ICT サービス部門・蔵本分室長)

- ・役職等: デザイン型 AI 教育研究センター・AI 社会実装部門長
- ・兼務等: 大学院先端技術科学教育部, 大学院創成科学研究科, 理工学部, 工学部
- ・専門分野: 情報セキュリティ, 情報検索, 機械学習, 自然言語処理, スポーツ科学, 医療情報処理学

(a) 学内委員・役職等の学内活動

- ・情報化推進委員会委員 (2016年4月～2020年3月)
- ・東南海・南海地震対策委員会委員 (2016年5月～2020年3月)
- ・教養教育における「情報科学入門」再設計 WG (2019年4月～2021年3月)
- ・教養教育実務者連絡会委員 (2019年4月～2021年3月)
- ・デザイン型 AI 教育研究センター設置準備 WG (2019年9月～2020年3月)

- ・情報教育検討ワーキンググループ (2019年10月～2020年3月)
- (b) 学会等の活動
- ・情報処理学会 (会員 [2016年4月～2021年3月])
  - ・社団法人 人工知能学会 (会員 [2016年4月～2021年3月])
  - ・言語処理学会 (会員 [2017年4月～2021年3月])
  - ・Association for Computing Machinery (会員 [2016年4月～2021年3月])
  - ・IEEE (会員 [2016年4月～2021年3月])
  - ・日本医療情報学会 (会員 [2017年4月～2021年3月])
  - ・教育システム情報学会 (会員 [2018年7月～2021年3月])
- (c) その他の学外活動
- ・コーダー道場徳島 (代表 [2017年12月～2021年12月])
  - ・Web×IoT メーカーズチャレンジ徳島運営委員会 (委員長 [2019年7月～2020年3月])
  - ・Web×IoT メーカーズチャレンジ徳島運営委員会 (委員長 [2020年9月～2021年3月])
  - ・消費者庁新未来創造戦略本部国際消費者政策研究センター (客員主任研究官 [2020年12月～2021年3月])
- (d) 教育
- ・情報科学入門 (教養教育)
  - ・医療情報処理学 (歯学部)
  - ・ソフトウェア設計及び実験 (理工学部)
  - ・情報セキュリティシステム論 (大学院)
  - ・データサイエンス (大学院)
  - ・知能情報システム工学輪講及び演習 (大学院)
- (e) その他
- ・2019年9月, 2018年度研究会優秀賞 (教育システム情報学会)
  - ・2019年12月, 第9回「ICT(愛して)とくしま大賞」e-とくしま推進財団賞<小学生部門賞> (徳島県 政策創造部 地方創生局地域振興課)

## 5.5 研究業績リスト (2019—2020 統合)

- [1] [Hiroki Tanioka](#), [Kenji Matsuura](#), Stephen Githinji Karungaru, Naka Gotoda, Kai Tomohiro, Wada Tomohito and Takai Yohei : Player Tracking in Sports Video using 360 Degree Camera, IEEE International Conference on Computational Photography 2019, Tokyo, May 2019.
- [2] Kimura Kaoru, Felicia Misa Rabarison, Kawanaka Kohei, [Hiroki Tanioka](#) and [Tetsushi Ueta](#) : Local Zoo Animal Stamp Rally Application using Image Recognition, IEEE International Conference on Computational Photography 2019, Tokyo, May 2019.

- [3] Kohei Kawanaka, Felicia Misa Rabarison, Hiroki Tanioka, Masahiko Sano, Kenji Matsuura and Tetsushi Ueta : Improving Animal Recognition Accuracy using Deep Learning, IEEE International Conference on Computational Photography 2019, Tokyo, May 2019.
- [4] 泉 竣也, 美井野 優, 上田 哲史 : カオスを用いた秘密分散法の研究, NOLTA ソサイエティ大会, No.NLS-44, 2019 年 6 月.
- [5] 天羽 晟矢, 伊藤 大輔, 美井野 優, 上田 哲史 : Ising マシンにおけるポンプレート分散調節による最適解探索, NOLTA ソサイエティ大会, No.NLS-31, 2019 年 6 月.
- [6] 美井野 優, 上田 哲史 : A computation method to calculate the stable manifold of a ship dynamical system, NOLTA ソサイエティ大会, No.NLS-12, 2019 年 6 月.
- [7] Atsuo Maki, Yuuki Maruyama, Naoya Umeda, Yuu Miino, Toru Katayama, Masahiro Sakai and Tetsushi Ueta : A perspective on theoretical estimation of stochastic nonlinear rolling, Proc. of 17th International Ship Stability Workshop, 39-46, Helsinki, June 2019.
- [8] Hiroki Tanioka : AITOK at the NTCIR-14 OpenLiveQ-2 Task, Proceedings of the 14th NTCIR Conference on Evaluation of Information Access Technologies, Tokyo, June 2019.
- [9] 上田 哲史 : NOLTA ソサイエティ 雑談, 電子情報通信学会 基礎・境界ソサイエティ Fundamentals Review, Vol.13, No.1, 5-6, 2019 年 7 月.
- [10] Kohei Kawanaka, Felicia Misamanana Rabarison, Hiroki Tanioka, Masahiko Sano, Kenji Matsuura and Tetsushi Ueta : Improving Animal Recognition Accuracy using Image De-fencing, The 7th International Conference on Smart Computing and Artificial Intelligence (SCAI 2019), 534-537, Toyama, Jul. 2019.
- [11] Kaoru Kimura, Felicia Misamanana Rabarison, Kawanaka Kohei, Hiroki Tanioka and Tetsushi Ueta : Animal Stamp Rally Application using Image Recognition, The 7th International Conference on Smart Computing and Artificial Intelligence (SCAI 2019), 1077-1078, Toyama, Jul. 2019.
- [12] 谷岡 広樹, 矢野 里奈, 松浦 健二, 佐野 雅彦, 上田 哲史 : ワークショップ形式によるプログラミング教育実践, --- コーダー道場徳島へようこそ ---, 教育システム情報学会第 44 回全国大会講演論文集, 195-196, 2019 年 9 月.
- [13] 幸田 尚也, 箭野 柊, 松浦 健二, 谷岡 広樹, カルンガル ギディンシ スティフィン, 和田 智仁, 後藤田 中 : フェイント学習におけるソフトウェアディフェンス設計の改善, 教育システム情報学会第 44 回全国大会講演論文集, 169-170, 2019 年 9 月.

- [14] 箭野 柊, 松浦 健二, 谷岡 広樹, カルンガル ギディンシ スティフィン, 幸田 尚也, 和田 智仁, 後藤田 中 : 対戦スポーツにおけるオフense基本戦術のシーン抽出とその応用, 教育システム情報学会第44回全国大会講演論文集, 213-214, 2019年9月.
- [15] 板東 孝文, 松浦 健二 : IDカード読取データを用いたキャンパス滞在証跡提示環境の試作, 学術情報処理研究, Vol.23, 145-152, 2019年.
- [16] 美井野 優, 上田 哲史 : 記号力学系に基づいた logistic map における不安定周期点の数値的導出法, 電子情報通信学会技術研究報告, Vol.NLP2019, No.36, 11-14, 2019年9月.
- [17] 宮崎 章平, 美井野 優, 上田 哲史, 川上 博 : 馬蹄型写像の同定とカオス制御, 電子情報通信学会技術研究報告, Vol.NLP2019, No.58, 117-122, 2019年9月.
- [18] 板東 孝文, 松浦 健二 : IDカード読取データを用いたキャンパス滞在証跡提示環境の試作, 学術情報処理研究, Vol.23, 145-152, 2019年9月.
- [19] 谷岡 広樹 : 徳島県の人口移動調査のためのトピック分析, 徳島県 EBPM 推進事業 研究報告書, 2019年9月.
- [20] Hiroki Tanioka : A Fast Content-Based Image Retrieval Method Using Deep Visual Features, ICDAR-WML: The 2nd International Workshop on Machine Learning 2019, Sydney, Sep. 2019.
- [21] Takahiro Oriishi, Kenji Matsuura and Kenji Ohira : PKI-enabled OSPFv3 for Reliable IP Traceback, Proc. of the The 10th International Workshop on NCSS in 7th CANDAR, Vol.9, No.1, 7-11, Nagasaki, Nov. 2019.
- [22] Seiya Amo, Daisuke Ito and Tetsushi Ueta : A method to suppress excited states for high symmetrical DOPO networks, Proc. NOLTA 2019, 173-176, Kuala Lumpur, Dec. 2019.
- [23] Yuu Miino and Tetsushi Ueta : Unstable Periodic Points in the Tent Map Based on Symbolic Dynamics, Proc. 2019 IEEE Workshop on Nonlinear Circuit Networks, 23-25, Dec. 2019.
- [24] Shu Yano, Kenji Matsuura, Hiroki Tanioka, Stephen Githinji Karungaru, Naoya Kohda, Naka Gotoda and Tomohito Wada : Tactics-Trend Analysis for Increasing the Possibility of Shooting in a Basketball Match, Proceedings of IEEE IMCOM2020, 1-4, Taichung, Taiwan, Jan. 2020.
- [25] 居石 峻寛, 松浦 健二, 大平 健司 : プレフィクスの送信元を保証するための PKI を用いた OSPFv3 拡張, 電子情報通信学会技術研究報告, Vol.119, No.435, 175-180, 2020年3月.
- [26] 坂井 衛, 谷岡 広樹, 松浦 健二, 後藤田 中, 和田 智仁 : ロジスティック回

帰分析を用いた打撃能力評価指標の提案, 情報処理学会研究報告, Vol.2020-MPS-127, No.8, 1-6, 2020年3月.

- [27] 幸田 尚也, 大芝 健允, 松浦 健二, 谷岡 広樹, 後藤田 中, 和田 智仁 : 遷移確率を用いたソフトウェアディフェンスによるフェイント動作学習環境, 教育システム情報学会学生研究発表会, 201-202, 2020年3月.
- [28] 大芝 健允, 幸田 尚也, 松浦 健二, 谷岡 広樹, 後藤田 中, 和田 智仁 : バスケットボールにおけるソフトウェアオフense構築とその評価, 教育システム情報学会学生研究発表会, 203-204, 2020年3月.
- [29] 内藤 弘望, 箭野 柊, 松浦 健二 : 視線計測によるチームスポーツの戦術識別スキル習得支援, 教育システム情報学会学生研究発表会, 205-206, 2020年3月.
- [30] 齊藤 玲, 内藤 弘望, 松浦 健二, 柏原 昭博, 石井 隆司 : 事故体験により安全意識を向上させる運転シミュレーションのデザイン, 教育システム情報学会 2019年度第6回研究会, 2020年3月.
- [31] 矢野 里奈, 谷岡 広樹, 松浦 健二, 佐野 雅彦, 上田 哲史 : 小学生のプログラミング的思考力の定量的測定とその分析, 情報処理学会研究報告, Vol.2020-CLE-30, 2020年3月.
- [32] 小林 崇弘, 佐野 雅彦, 松浦 健二, 谷岡 広樹, 大平 健司, 上田 哲史 : 希望研究室選択時の研究内容調査支援システム, 情報処理学会第82回全国大会講演論文集, No.4ZF-03, 2020年3月.
- [33] 箭野 柊, 松浦 健二, 谷岡 広樹 ; カルンガル ギディンシ スティフィン, 幸田 尚也, 後藤田 中, 和田 智仁 : 集団対戦型フィールドスポーツの戦術適用判断の支援環境, --- バスケットボールのオフense基本戦術 ---, 情報処理学会論文誌, Vol.61, No.3, 657-666, 2020年.
- [34] 泉 竣也, 上田 哲史 : テント写像を用いた秘密分散法の研究, 電子情報通信学会 2020年総合大会講演論文集, 2020年3月.
- [35] Stephen Githinji Karungaru, Kenji Matsuura, Hiroki Tanioka, Naoya Kohda, Naka Gotoda and Tomohito Wada : Towards Drone-Video Player Detection and Tracking for Soccer Strategy Analysis, Proceedings of the 6th IEEEJ international workshop on Sensing, Actuation, Motion Control, and Optimization, Vol.TT-1, 1-6, Tokyo, Mar. 2020.
- [36] Yuu Miino, Tetsushi Ueta and Hiroshi Kawakami : Bending angles of a broken line causing bifurcations and chaos, Nonlinear Theory and Its Applications, IEICE, Vol.11, No.3, 359-371, 2020.
- [37] Shu Yano, Kenji Matsuura, Hiroki Tanioka, Hiromu Naito, Naka Gotoda and Tomohito Wada : A Supporting System Design for Basketball Offense Tactics,

Proceedings of IIAI-AAI2020, 213-216, Kitakyushu, Sep. 2020.

- [38] Hiromu Naito, Kenji Matsuura and Shu Yano : Learning Support for Tactics Identification Skills in Team Sports by Gaze Awareness, Proceedings of IIAI-AAI2020, 209-212, Kitakyushu, Sep. 2020.
- [39] Rina Yano, Hiroki Tanioka, Kenji Matsuura, Masahiko Sano and Tetsushi Ueta : Quantitative Measurement and Analysis to Thinking as a Way of Programming for Elementary School in Japan, Proceedings of IIAI-AAI2020, 163-168, Kitakyushu, Sep. 2020.
- [40] 谷岡 広樹 : スポーツアナリティクスにおけるデータと AI 活用, 教育システム情報学会誌, Vol.37, No.3, 192-197, 2020 年 7 月.
- [41] 矢野 里奈, 谷岡 広樹, 松浦 健二, 佐野 雅彦, 上田 哲史 : 計算論的思考力の定量的な測定を目的としたオンラインテストの開発, 教育システム情報学会第 45 回全国大会講演論文集, 43-44, 2020 年 9 月.
- [42] 箭野 柁, 松浦 健二, 谷岡 広樹, 和田 智仁, 後藤田 中 : バスケットボールにおけるボール保持プレイヤーの行動選択支援環境, 教育システム情報学会第 45 回全国大会講演論文集, 121-122, 2020 年 9 月.
- [43] 齊藤 玲, 柏原 昭博, 内藤 弘望, 松浦 健二, 戸井 健夫, 栗田 弦太 : 交通事故の疑似体験を適応的に引き起こすための 運転シミュレーションのデザイン, 教育システム情報学会第 45 回全国大会講演論文集, 263-264, 2020 年 9 月.
- [44] Seiya Amoh, Daisuke Ito and Tetsushi Ueta : A method to suppress local minima for symmetrical DOPO networks, Nonlinear Theory and Its Applications, IEICE, Vol.11, No.4, 580-589, 2020.
- [45] 松浦 健二, 金西 計英 : 遠隔×対面での授業実践におけるライブ授業実施および支援組織の活動に関する一例, 教育システム情報学会誌, Vol.37, No.4, 267-275, 2020 年 10 月.
- [46] Kohta Sugawara, Kenji Matsuura, Stephen Githinji Karungaru and Naka Gotoda : A New Step toward Mastering Double-Under Skill with Supporting Application of Image Processing, The Journal of Information and Systems in Education, Vol.19, No.1, 44-53, 2020.
- [47] 内藤 弘望, 松浦 健二, 柏原 昭博, 齊藤 玲, 戸井 健夫, 栗田 弦太 : 視線誘導を導入した自動車運転時の気づき支援環境, 教育システム情報学会 2020 年度第 4 回研究会, Vol.35, No.4, 21-26, 2020 年 11 月.
- [48] Seiya Amo and Tetsushi Ueta : Bifurcation analysis of 3D hybrid autonomous system, Proc. NOLTA 2020, 493-496, online, Nov. 2020.
- [49] Miho Ogura and Tetsushi Ueta : A Cryptographic Hash Function Based on a Chaotic Map, Proc. NOLTA 2020, 150-153, online, Nov. 2020.

- [50] Yuu Miino and Tetsushi Ueta : Devil's staircase and multistability in a hybrid harmonic oscillator, Proc. NOLTA 2020, 501-504, online, Nov. 2020.
- [51] 谷岡 広樹 : 単語分散表現を用いた時系列データによる AI ブーム分析, しごと能力研究, No.8, 2-15, 2020 年.
- [52] 谷岡 広樹, 鈴木 泰介, 今井 洋志, 鹿内 寛, 野口 朋之, 服部 由実, 望月 翔太, 松田 敏孝 : 日報入力システムにおけるアノテーション機能を用いたキーワード分析, 電子情報通信学会技術研究報告, Vol.120, No.374, 19-22, 2021 年 2 月.
- [53] Shunya Izumi and Tetsushi Ueta : Secret Sharing Scheme Using Chaotic Neural Network, Proc. NCSP2021, 1-4, Online, March 2021.
- [54] Yuu Miino, Daisuke Ito, Tetsushi Ueta and Hiroshi Kawakami : Locating and stabilizing unstable periodic orbits embedded in the horseshoe map, International Journal of Bifurcation and Chaos, Vol.31, No.4, 2150110, 2021.
- [55] 谷岡 広樹, 森本 美行 : 相関関係による得点に繋がるプレーの分析 --- 2019 年 J1 リーグのプレーデータの相関分析 ---, 日本フットボール学会 Congress 19, 2021 年 3 月.
- [56] 長瀧 弘大, 松浦 健二, 谷岡 広樹, 和田 智仁, 後藤田 中 : バスケットボールにおけるモデル視野の獲得支援環境の設計, 教育システム情報学会学生研究発表会, 2021 年 3 月.
- [57] 山本 連平, 松浦 健二, 谷岡 広樹, 和田 智仁, 後藤田 中 : バスケットボールの 1 対 1 におけるディフェンス注視点の学習支援環境, 教育システム情報学会学生研究発表会, 2021 年 3 月.
- [58] 中尾 聡, 佐野 雅彦 : ファイアウォール設定状態の可視化, 情報処理学会第 83 回全国大会講演論文集, Vol.3, No.2U-03, 155-156, 2021 年 3 月.
- [59] 谷岡 広樹 : 社会実装に主眼をおいた AI・データサイエンス教育の実践計画, 教育システム情報学会 2020 年度 特集論文研究会, 2021 年 3 月.
- [60] 郡 涼太, 谷岡 広樹 : 人狼ゲームにおける人狼陣営の勝率向上に寄与する行動分析, 情報処理学会研究報告, Vol.2021-ICS-202, 2021 年 3 月.

## Statistics & Index

### A. 研究者名ごとの和英集計(JP:57, EN:39)

名前	数	Name	count
上田 哲史	11	Tetsushi Ueta	15
松浦 健二	21	Kenji Matsuura	10
佐野 雅彦	5	Masahiko Sano	3
谷岡 広樹	20	Hiroki Tanioka	11

B. 年度別のカテゴリ毎インデクス (Total:60, 2019:36, 2020:24)

Year	RC	PR	IC	DC	WS	Total
2019	[9]	[15],[33], [36],	[1],[2],[3],[7], [8],[10],[11], [20],[21],[22], [23],[24],[35]	[4],[5],[6],[12], [13],[14],[32], [34]	[16],[17],[18], [19],[25],[26], [27],[28],[29], [30],[31]	36
2020	[40], [45]	[44],[46], [51],[54]	[37],[38],[39], [48],[49],[50], [53]	[41],[42],[43], [55],[58]	[47],[52],[56], [57],[59],[60]	24
Total	3	7	20	13	17	60

(凡例) RC:総説・解説, PR:ジャーナル, IC:国際会議, DC:国内会議, WS:研究会

5.6 外部資金獲得 (2019-2020)

(1) 科研費基盤(C)18K11572, 2018—2022

課題名：持続的研究の効率化を支援するシステムの研究

研究代表者：佐野雅彦

研究分担者：上田哲史, 松浦健二, 大平健司, 谷岡広樹

(2) 科研費基盤(B) 18H03344, 2018—2021

課題名：身体スキル学習支援における局所的・大域的視点を結ぶサイバーフィジカル空間

研究代表者：松浦健二

研究分担者：谷岡広樹, カルンガルステファン, 後藤田中, 和田智仁

(3) 学術変革領域研究(B) 20H05798, 2020.10—2023.3

課題名：シナジー創薬学：情報・物質・生命の協奏による化合物相乗効果の統合理解と設計

研究代表者：座間味義人

研究分担者：中馬真幸, 石澤有紀, 石澤啓介, 谷岡広樹

5.7 共同研究・受託研究等

(1) 松浦健二：他大学研究者および企業との共同研究 (2019.5-2022.3)

(2) 共同研究 (株式会社サンロフト), 2020.5—2021.3

課題名：企業の日報文書を用いた業務改善のための研究

研究代表者：谷岡広樹

研究分担者：鹿内寛



## あとがき（総括）

2019年度末から2020年度の1年強の間は、新型コロナウイルス感染症への対応に奔走した期間であり、全人類がはじめて経験する状況であった。この期間は、授業のオンライン化や構成員のテレワーク化などそれまでの大学における諸活動を一変させる状況となり、情報センタースタッフの献身的な活動が大学を支えたと自負している。無論、そのサービスや環境を使われている構成員の皆様からすれば不十分や不親切な対応もあったものと承知しており、叱咤激励を頂戴したことも記憶している。大学執行部や他部局の方々からは、大変心強い応援もいただき、組織として助けられた側面もあった。評価を一定のレベルに照らして数値化することは控えるが、定性的に申せば、情報センターのパフォーマンスは相対的に高かったと考える。ただし、研究面は少しアウトプットが出にくくなった側面もあり、今後研究面の業績にも注力していくことが求められる。

いずれにしても、そのような環境下でも、本書にまとめられたように、全職員一丸となって、何とか従来業務を含めて大学機能を損ねることなく、運営できたことが、今後のポストコロナ時代に向けての新たな試みを始めたり、従来業務を見直す契機となればと願っている。

2021年3月31日  
情報センター長  
松浦 健二